

10/10
五郎

窓口無料に

運動広がる

安心して医療が受けられるようだ。障害者にとって健康で暮らすために医療の支援は必須です。ただ収入が少ない障害者にとって医療費自己負担分の窓口支払いは、容易ではありません。各地で負担をなくすうじアンケートや署名が取り組まれています。

(高井垂紀)

障害者の医療費助成制度をめぐっては、一受診あたり数百円負担しなければならない自治体もありますが、医療費の自己負担分を窓口で支払う

必要がない都道府県は30あります。その他の県では、いったん窓口で自己負担額を支払い、還付手続きを取つて助成されるだけ払い戻しを受けれる方式(償還払い)です。

現在、償還払いの三重県で、「三重の福祉医療費窓口無効をするため」は今年6～8月にアンケートを実施。400人余りが回答しました。

受診抑制の傾向

同会を構成する三重県社会保険連絡協議会の藤井新一事務局長は、「所得制限がありながらも、やっと県は、来年4月から子どもの医療費窓口無料化を始めた」となりました。次は障害者医療費に取り組みたい」と語ります。

アンケートの中間まとめに

街頭で署名行動をする障害協会やさきの人たち(高崎市)(障害協会やさき提供)



アンケートについて打ち合
わせをする「三重の福祉医
療費窓口無料をするための
会の人たち」(津市)

に受診し、身体回復の向上につながる」など切実な声が上がりました。

注目集める活動

宮崎県は、入院の場合窓口負担が無料ですが、それ以外の医療は償還払いです。

「私は訪問介護のヘルパーをしています。脊髄損傷で寝たきりの利用者は、月7万～8万円も支払っている。数ヶ月後に戻つてみるとばいえ、低所得の人には大きな負担だ」

「障害者の生活と権利を守る宮崎連絡協議会(障害協会やさき)」の馬場洋光事務局長は、そう指摘します。

医療費は、通院4013円、薬局3715円、入院3万1386円、リハビリ7068円。藤井さんは「障害者の多くは所得が低いため普段、受診抑制している傾向がある」と話します。

重症化で医療費がよりかかることが。アンケートに取り組んだ津市の上村照代さん(69)は、「自身も身体障害があります。「けん板が断裂したとき、痛みを感じながら我慢していたら悪化してしまった」

自由記述欄には、「前払いの負担が大きい。自分は聴覚障害者で聞き取りができないので、やりとりの負担もあり、(窓口無料化を)実施してほしい」「窓口無料化になれば、行きたい、必要なとき語ります。

馬場さんは「現在80000人弱の署名が集まつた。11月議会提出までに1万人を目標に他団体と幅広く取り組んで組んできました」

人弱の署名が集まつた。11月議会提出までに1万人を目標に他団体と幅広く取り組んで組んできました。

活動がマスコミにも取り上げられるなど市民の注目を集めめた中、戸数正宮崎市長は8月、市の「業務負担が増大している」として県に窓口負担無料化を要望しました。

日本障害者センターの家平信事務局長は「医療費助成に地域格差があつてはいけない。各地で取り組みつつ、最終的には国の制度になるよう運動をすすめていきた」と語ります。